

天台宗開宗1200年慶讃大法会



延暦寺根本中堂は、連日各種の報恩法要が行われ、賑わいを見せた
(写真) 10月20日 天台仏教青年連盟会員ら二二〇名による報恩法要



天台宗開宗1200年

The Tendai Journal

天台ジャーナル

広報天台

2005年(平成17年) 11月1日火曜日(毎月1日発行)

1部50円(消費税込・送料別)
発行所/天台宗出版室
発行人/出版室長 工藤 秀和
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内
電話 077-579-0022 (代)
Eメール/T-Press@tendai.or.jp

総登山・総授戒
あなたの中の
仏に会いに

極微 ごくみ

人間は、いつの日か自然を征服するだろうという西欧の考え方は、すっかり影を潜めてしまった感がある。アメリカのハリケーン災害の惨状を目の当たりにして、圧倒的な自然の猛威に人為の小ささを感じた。おまけに地球温暖化がハリケーンや台風の凶暴化に拍車を掛けているという。

人間自らが自然の猛威をバウアッブさせているのなら、自業自得というべきか。しかし、戦争もそうだが、富の恩恵を一番受けている層はいち早く安全な場所に避難できた。最前線にいかずにすむのに、一番被害を受けるのは貧困層であったり、貧しい国や地域であるのは、どうも納得できない。

慶讃大法要結願を迎える

十月一日に開關した天台宗開宗千二百年慶讃大法会大法要が、同三十一日に結願を迎えた。結願大法要は全国から宗の役職者や教区の代表者約三百七十名が出仕。また、この大法要に併せ、天台宗と延暦寺両内局に加えて天台宗務庁および延暦寺一山寺院住職により法華經の全巻読誦を行い、祖師への報恩の誠が披瀝された。

報恩一色の祖山

一カ月に亘った大法要には天台宗内の各団体はもちろん、比叡山にゆかりの二十六宗派、教団が報恩法要を奉修した。また、伝統芸能など慶讃行事も数多く奉納され、期間中祖山は宗祖伝教大師の遺徳を讃える報恩感謝一色に染まった。

秋篠宮両殿下のご登壇

また大法要期間の五日には、秋篠宮文仁親王同妃両殿下が比叡山に御参拝になり、聖徳太子報恩法要「上宮太子御影供」に御臨席になられた。



宮本祖豊侍真の案内で、浄土院を御参拝される秋篠宮文仁親王同妃両殿下(10月5日、報恩法要御臨席後)

脈々と流れるみ教え

宗祖大師が「すべての人々は平等であり、ほとけになれる」という法華一乗の教えによって天台宗を開かれてから、来年一月二十六日に一千二百年の正当を迎える。法華一乗の教えによって天台宗が開かれて以来、日本の伝統仏教の祖師方の多くは比叡山で修行された。大師のみ教えは天台宗ばかりではなく、日本仏教の一大源流として脈々と流れている。比叡山が日本仏教の母山と呼ばれ、今回の大法要に、多くの宗派、

教団が参加されたゆえんである。

法の灯

「ウォーキング」と「行」

九州東教区布教師会会長 青山 映信

最近、ウォーキングを楽しんでいる人々を町のあちこちでよく見かける。「健康」に対する関心が、年々高まっているからであろう。「健康でなければ、どんなに恵まれた境遇であっても幸せではない」ということに多くの人が気付くようになった。

いや、一昔前でも、そんなことは誰でも分っていた。けれども、少々苦しくても、働いただけ働かなくても、家族に満足なこともし

キ口を歩く「行」がある。また比叡山の「千日回峰行」は一日に三十キロから始まり、最後は八十キロの行程を歩く行である。千日で四万キロとなり、地球を一周する計算である。まさに修行である。

我々凡夫でも、いざ歩こうと思えば、実行するには勇気が必要だ。まして、日々継続するには強固な意志が必要である。

修行に挑む行者は、ただひたすらに歩くことで、心を練り、磨くのである。それを支えるのは、衆生を救おうという強固な道心である。

期間中最大の報恩行

結願を迎えるにあたり西郊

宗務総長選挙が告示

任期満了に伴う宗務総長選挙が、十月十九日に告示された。

立候補の届出は十一月一日から五日まで。投票は、同十二日から同二十五日までで、有権者(全国)の天台宗法人寺院住職・前

住職・副住職(約二七四〇名)から、投票用紙の持参又は郵送によって行われる。

開票は十一月二十五日。同日午後には、新宗務総長が誕生する。任期は平成十七年十二月十二日から二十一年十二月十一日までの四年間。



花想
風言

キクは皇室の紋章だ。比叡山根本中堂の大屋根にも十六弁の菊が金色に輝いている。

中国では紀元前七世紀に延命長寿の花として鑑賞され、わが国へは奈良時代の七世紀に不老長寿の「靈花」としてもたらされた。半耐寒性の多年草だから、春夏秋冬いずれの季節にも咲き、たくさんの交配種が育てられた。

先の昭和天皇のご不例で昭和の世が終わろうという大騒ぎのころだった。天皇が崩御され、大喪の礼が真冬と想定された場合、献花のため大量に必要な白ギクはいったいどこで調達するのだろうか、筆者が勤務した週刊誌編集部で話題にあがった。

冬のさなかで、日本ではいくら電照キクがあったとしても間に合わない。八方手を尽くして、業者に問い合わせると、

第20回 キク厚物咲き 福田徳衍 (文・写真)

南米とアフリカ・ケニアのキリマンジャロの麓にある大農園が白キクの産地だとわかった。「それっ」とばかり、カメラマンと記者がアフリカに派遣された。

キリマンジャロの麓には二階建てのバスがマサイ族、キクユ族といった地元従業員の送迎に走り回っていた。そのプランテーションは英国人のオーナーの手で厳重に管理され、同じ丈夫の長さを保った白ギクが長大なハウスの中に整然とつぼみをつけて出番を待っていたという。

八九年一月七日に昭和天皇は崩御。翌日からは平成と改元され、二月二十四日に大喪の礼が新宿御苑で行われた。

この時使われた大量の献花用キクは、南米とアフリカから航空機で運ばれた。

◆プロフィール
一九三六年東京生まれ。十二歳から二十一歳まで比較して小僧生活をして過ごした。元朝日新聞社記者。信越教区新潟部・徳法院住職。俗名福田 徳衍。



特別布教実行委員により奉修された「常楽院妙音十二楽墓前供養」法要(大導師は九州西教区・寺田豪明宗務所長)。法要に先立ち、妙音十二楽の保存に尽力された、日置市長・宮路高光氏、吹上町の保存会、同上田尻、中田尻、下田尻の自治会に感謝状が授与された。

鬼手仏心

あなたが大切だ

一隅を照らす運動総本部長 壬生 照道

先頃、こんな広告を目にしました。
「命は大切だ。命を大切に。そんなこと何千万回言われるより『あなたが大切だ』誰かがそう言ってくれたら、それだけで生きていける。」
日本の自殺者は年間三万五千人に上り、家出人は十万人に達しています。また、青少年の殺人については、毎日二ユースで報じられている通りです。その都度有識者の方々が「普段からの会話が重要だ」「学校ヘナイクを持ってこないように指導すべきだ」などの論評をされます。それは、間違っていないと思

ます。
しかし、私はなぜかしら小石が入った靴を履いているような違和感を感じてしまうのです。
今夏に開催された、宗教サミット十八周年記念行事のシンポジウムで、奈良康明駒澤大学学長が「マザーテレサが『愛(仏教なら慈悲)の反対は憎しみではない。それは無関心です』と言われていることに深い衝撃を受けた。今の我々は他者が悲惨な状況におかれているのではないかと述べていました。傷ついた心は敏感です。通

り一遍の白々しい一般論や、その場限りの言葉などの「無関心」にはそっぽを向いてしまっています。いや、かえって逆効果になってしまっているのでは、大多数に向き合うのではない、ただひとりと同じく向き合うことです。
因があれば果があるとは仏教の教えるところです。日本は長い年月の因によって今日の果を生じました。この荒唐は今明日には解決しないでしょう。他者を思いやることから第一歩を始めたと思えます。それは、まず自分自身を大切にすることから始まると思えます。

堅牢地神讃える妙音十二楽



去る十月十二日、鹿児島県日置市吹上町の常楽院(常楽院法流・栗山光人住職)において、「妙音十二楽法要」が執り行われた。「妙音十二楽法要」は、琵琶や笛、太鼓など、八種類の楽器を使い、十二通りの曲を演奏して堅牢地神(大地の神)の威徳を讃える法要。この鹿児島島の地に常楽院を開いた宝山検校を偲ぶと共に、歴代住職の墓前供養も兼ねて毎年、十月十二日に執り行われる。

常楽院の歴史は平安時代に遡る。宗祖伝教大師が唐から帰り、比叡山に延暦寺を建立した時、その地鎮祭を修したのが、九州の地神盲僧八名である。「地神盲僧」とは、琵琶を演奏し、主に地神経や地神陀羅尼経を唱えながら三宝荒神や土地の神のお祈りをする盲僧のことである。この時のことは、盲僧縁起に「伝教大師が比叡山入山の時、毒蛇が出て障害をなしたが、琵琶を弾きながら地神陀羅尼経を唱えてそれを祀り鎮めた」と伝えられている。これが縁で盲僧達は天台宗に帰依したが、その中の一人に常楽院開祖、満正院阿闍梨がいた。

満正院阿闍梨は大同三(八〇八)年、近江逢坂山に正法山常楽院を建立し、盲僧の法儀を確立し、晩年には「妙音十二楽」の曲律を制定している。
時代はずっと下がり、建久七(一一九六)年、同院第十九代住職宝山検校は、
源頼朝公の命を受け、祈禱僧として島津氏初代忠久に従って鹿児島に下る。そして、日置郡伊作郷(今の吹上町田尻中島)の地に常楽院を移し、島津家の武運長久や、国土安穩、万民利益を祈った。この時、「妙音十二楽」がこの地に伝えられたのである。その後、常楽院は移転や戦災で全焼するなど、苦難の歴史を辿り、戦後は宮崎県日南市に移っていたが、平成八年に現在地に本寺が戻っている。
「妙音十二楽」は、かつては南九州各地で盲僧達により演奏されてきたが、現在はこの常楽院での法要の時にしか行われなくなっており、鹿児島県の無形文化財に指定されている。
本年は開宗二百年慶讃大法会記念として、九州西・九州東の教区宗務所長、宗議会議員等を中心とした「鹿児島県特別布教実行委員会」のメンバーが「常楽院妙音十二楽墓前供養」法要を修した。

常楽院に伝わる伝統法要

談話室



プラハ・グレゴリオ聖歌隊と大原魚山声明研究会 東西鎮魂の合唱

今年五月に急逝した天台声明の名手・天納久和師を追悼しようと、チェコで共演したプラハ・グレゴリオ聖歌隊が十月十三日に、天納師が住職を務めていた京都市大原の実光院を訪れた。同日、大原魚山声明研究会(声明研)の僧侶九名も参加して、キリスト教ミサ曲と仏教声明が、声明の道場として千年の歴史を持つ勝林院を会場に共演され、天納師の人柄と、功績を偲んだ。

天納久和師を偲んで 天台声明の第一人者

● 天納師は天台声明の第一人者といわれた故天納傳中・元実光院住職が他界後、声明研の代表を継承。天性の能力に加え、努力を続け、学理的に

● 声明研は、一九九八年と二〇〇〇年に、プラハでグレゴリオ聖歌隊と合同ミサを行っている。

● 今回の実光院訪問は、天納師の訃報に接した聖歌隊員

も他の追従を許さず、「天台声明を背負って立つ第一人者」と認められていた。天納師は「天台声明がやりたい」との希望で僧侶となった。最初は比叡山で人間国宝の故中山玄雄大僧正に師事。その後中山大僧正の勧めによって、傳中師に転師し、研

鑽を続けた。声明は天台宗の法要では必ず唱えられるもので、天台宗僧侶には必要不可欠のものである。二人が住職をした大原の実光院は天台声明の宗家ともいえる存在で、出家直後の瀬戸内寂聴さんも傳中師を訪ねて稽古に通っている。

ある。「遠い国の人なのに、短時間で精神的にとても近く感じる友人だった」と聖歌隊員たちが語るのには、単に「同じ道を行く者同士」というよりは、久和師の穏やかで、常に潔癖だった人柄にありそう

仏教の散歩道



ひろ さちや

をわの支や/巻数。題からせい。ち巻数。間かく広い。さ8多。な点説幅いろ8と。々視く、てひ経な。様なすは、け「心」。

《我命ある限りは食有べし、食尽るは我が命の終わる時也、とおもひさためつれば、甚やすし》

「自分の命のあるあいだは食糧のあるはずだ。食糧が得られなくなるときが、自分の命の終わるときだ。そう覚悟すれば、すごく心が平安になった」

か、といった心配もあります。でもね、リストラされれば、されたときのことではないですか。そのときに考えればいいのであって、毎日毎日あれこれ心配して、そして上司にごまをすって卑屈になって生きる必要はありません。へなるようになるさー」と高をくくって生きたほうが、精神衛生の上でもよさそうですね。

地震に関して言えば、政治家や行政の担当者は方が一に備えて準備をすべきです。われわれは彼らに方が一のとときの心配をさせるために税金を払っているのです。われわれが政治家や行政マンを雇っているのです。だから、心配は彼らにさ

せておけばいい。われわれ個人としては、あれこれ心配する必要はありません。山中に住む奇人が、橋が落ちれば死ねばいいと悟ったように、方が一のとときは死ねばいいのです。そう思えるのが悟りでしょう。もちろん、必要な準備はすべきです。でも、過度な心配、余計な心配はする必要はありません。その意味では、「高をくくって、どうにもならないこと」は、どうにもならないのですから

● エベン代表は言う。「宗教は違っても、我々と傳中師久和師はとても近い存在だ。相互理解と素晴らしい思い出を残してくれた。久和師が実現できなかったことを少しでもかなえられるようにこれからも交流を続けたい。このような機会が与えられてとても感謝している」と。

江戸時代後期の文章家に伴高蹊(一七三三—一八〇六)がいます。伴家は近江八幡の商家で、京都と江戸、大坂に店を持つていました。高蹊はその主人だったのですが、三十六歳という若さで隠退したのです。もともと、江戸時代であれば、三十六歳はそれほど若くはないのかもしれません。その伴高蹊の著作に『近世奇人伝』があります。世に奇人と呼ばれる人々を評したものです。その中に、名前がわかりませんが、こんな人物が登場します。

余計な心配

だが、このころになって、ようやく彼は悟ることができました。がんになればどうしよう



(カット・伊藤 梓)

世界言語である音楽を通じて、相互理解と宗教対話が深められていたことが理解できる。むしろ言葉による理解よりも、ハート・トゥ・ハートの理解の方が瞬時で固いので

● 翌十四日には、グレゴリオ聖歌隊と大原魚山声明研究会のメンバーは、天台宗開宗千二百年慶讃大法会大法要に出席し、この日と同じ曲目を根本中堂で捧げた。

歩く

新潟県中越地震から一年余 余震の続く現地を歩く

地域は一つ、希望を捨てない

平成十六年十月二十三日に起こった新潟県中越地震から、一年以上が過ぎた昨年十一月に、被害が深刻だった川口町と小千谷市の寺院を訪ねた。あまり報道されていないが、現地では今も余震が続く、なお仮設住宅暮らしを余儀なくされている住職もいる。道路などのインフラもようやく応急処置が終わった段階で、本格的な復興は、今年からになりそうだ。地域住民が励まし合って、明日に近づけようとしている。

自分の力で歩きたい

被害が大きかった北魚沼郡川口町では、生活道路などは、応急処置はなされているが、ヒビ割れや崩れなど、多くは震災当時のままである。開越自動車道も長岡から六日町までは、車線規制をして震災復興工事が続いている。家屋などの復旧建設工事は、工事関係者の人出不足で、半年から一年待ちの状態である。道路には、青森や千葉、山形といった他府県ナンバーのトラックが走り回っている。川口町・大廣寺住職の古田島善照は、今も仮設住宅で暮らす。朝と夕方に寺を見に行くが復旧にとりかかれるのは、平成十八年の春からになりそうだ。「仮設の人々や、信者さんと励まし合って暮らしている」という。

そのまま教区に返す寺院もある。みな、自立しようとしているのだ。「雪国の人は、できるだけ他人に迷惑をかけずに生きようとする気風がある」と分析する人もいるが、誰もができることなら自分の足で立ちたいと思っているのだ。だが、未来に希望をつなぐ人ばかりではない。信越教区のある非法人寺院は、住職が高齢で、後継者がいないところに、震災でダメを出された。「寺院解散届けが出されました」と信越教区宗務所長の小山健英は肩を落とす。



仮設住宅に住みながら寺院復興に夢をつなぐ古田島善照・大廣寺住職

明るい話題もある。結婚式当日に地震被害にあった十日町・本城院の服部諦圖・昌子夫妻には昨年十一月に男の子が生まれた。震災を乗り越えていこうとする新しい命の誕生である。



震災後の状況を語る、渡辺覺忍・龍覺院住職

マスコミでは、もうほとんど報道されることもないが、現地ではまだ震度三程度の余震が続いている。小千谷市岩沢町の龍覺院(渡辺覺忍住職)へ至る山道は、まだ崖崩れで挟れたままになっていた。渡辺は「正月行事は、それなりにさせてもらいましたが、雪がひどくて四日くらい積もった。十回くらい雪ホリをししました」という。半寺半農で、田んぼもやっているが、地震で地面にヒビが入り、半分が苗がダメになったという。震災で信者四件が村を出た。「過疎の村で四件は、こたえます」。それでも、元気なうちは寺を守り、村人と共に仏を護っていく。

復興わらべ地蔵に託す願い

長岡市の国営越後丘陵公園には、未だに故郷へ帰ることのできない山古志村の人々が入居している仮設住宅が並ぶ。その一帯は、満洒な建て売り住宅が新興住宅地を形成し、複雑な対比を見せている。

ここには、平成十七年三月に京都の仏師・松本明慶が彫った「復興わらべ地蔵」がある。震災で地形が変わるほどの被害を受けた山古志村で、倒れた三本の杉の木から、松本が彫り出したものである。

倒れた杉の樹齢はおおよそ二百年だった。松本は、震災直後に立ち入り禁止だった村に、村長の特別許可をもらって入った。その時は、二層を超える雪が積もっていた。「最初からお地蔵さんを作りたい」と思っていた。鎮守とい



仮設住宅の各集会所に祀られている「復興わらべ地蔵」

うのはお地蔵さんの仕事。子どもを守るのもお地蔵さんの仕事。村に災害がないようにお願いするのは最も適していると思っただけで、一度死んだ木だけだと、仏さまにすれば長生きの木になる。同じ震災にあった人と木である。「地蔵の底にいても助けてくれるのがお地蔵さん。心を和ませてくれますので、毎日お参りできる方はお参りしてあげてください。頭をなでてあげてください。必ず自分にも笑顔と元気がもらえるはず。末永く大切にしてもらえようお願いします。引き渡しの時に、松本は言った。

仮設住宅には、洗濯物が干され、制服を着た中学生たちが「家」に帰ってくる。それだけ見れば、どこにもある日常風景だ。違うのは、被災者が住んでいるのがバラック建ての仮設住宅で、誰もがその日常を望んでいないということである。日本海から吹き寄せてくる荒い風に吹かれて、仮設住宅の道路に佇んでいると、自分が何もできない、無力なよそ者であることが身にしみる。松本が彫った九体のわらべ地蔵は、山古志村にもあるが、多くは、この仮設住宅街のそれぞれの集会所に祀られている。その写真を撮らせてもらって、お地蔵さんの写真の重なる仕事だった。各集会所に集まっている山古志村の人々に話を聞いて撮影の許可をもらう。「取材」などというよそ者の言葉は使えない。「すみませんが、京都の仏師が作られた地蔵さんの写真を撮らせて

「どんなにきびしい／冬だっ ていつか雪は溶け／ふきのとうが芽を出して／カタクリの花が咲く／山古志の人は耐えてきた／春を信じて耐えてきた／だからこれからも／耐えていける／立ち直れる／春を信じて」 「このお地蔵さんは、みんなが被災者の老婆が言った。わらべ地蔵は村の一員になっていた。尊いことだった。 「みんなが、お地蔵さんと一緒に早く村にかえれますように」と手を合わせた。(文中敬称略) 文・出版編集長 横山和人



今も避難生活を余儀なくされる旧山古志村の仮設住宅 (長岡市内)

あなたの中の 仏に会いに

天台山は 平成十八年一月二十六日に 開宗十二周年祥当の記念日を迎えます。これを記念し、一月一日から二十七日まで、延慶寺根本中業御本尊、薬師瑠璃光如来を御開扉します。

詳しくは 〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2 天台宗務庁 天台宗開宗1200年慶讃大会事務局 TEL 077-579-0022 FAX 077-578-4814

明けまして おめでとうございます

あなたの周りでの出来事、ご感想をお待ちしております。また、取材について「こんな出来事、あんな人々」をお知らせ下さい。封書、FAX、Eメールで、天台宗務庁出版室までお送り下さい。

天台宗務庁 総務部 出版室
〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2
TEL 077-579-0022 FAX 077-578-4814 Eメール: T-Press@tendai.or.jp

謹んで新年のお慶びを申し上げます

平成十八年

妙法院門跡 門主 菅原 信海 執事長 木ノ下 寂俊	曼殊院門跡 門主 半田 孝淳 執事長 松景 崇誓	日光山輪王寺 門跡 菅原 栄光 執事長 小暮 道樹 〒321-1494 栃木県日光市山内1-3-00 電話 〇二八八-五五〇〇三三	東叡山輪王寺門跡 門主 神田 秀順 執事長 浦井 正明	善光寺本坊大勧進 貫主 小松 玄澄 〒380-1491 長野県青森町四九一 電話 〇二六三-四三〇〇〇一	医王山毛越寺 貫主 南洞 頼教 〒029-4102 岩手県早稲野早稲野五八 電話 〇一九一四-二二三三	西国第一番靈場 那智山青岸渡寺 住職 高木 亮享 TEL 〇五五-五五〇〇〇〇 FAX 〇五五-五五〇七五七	厄除元三大師 深大寺 住職 谷 玄昭 東京都調布市深大寺五十五-1 電話 〇四一四-八八〇-五五二
---------------------------------	--------------------------------	---	-----------------------------------	---	--	---	--

一隅を 照らそう

本尊薬師縁日で終日賑わう

= 東海教区・高田寺 = 大法会記念の書道展も

東海教区の医王山・高田寺（愛知県西春日井郡・柴田真成住職）で昨年十一月十三日に大護摩供法要が厳修された。この法要は、同日が国宝・



本尊薬師如来大縁日にあたる事から営まれたもので、関連行事も種々開催され、同寺院内は大勢の参拝者で終日賑わいを見せた。

高田寺は、平安時代の三蹟のひとつ小野道風が、眼病平癒と書道達を祈願した御札に、古筆と「医王山」の扁額を奉納したと伝えられている。道風ゆかりの寺である。関連行事では、「第二十五回わんぱく子供相撲大会」や「生け花展」などの奉納が行われた。特に開宗千二百年慶讃記念として開かれた「第二十二回高田寺道風公献書展」では、東海三県から千七百二十点もの作品が寄せられ、「筆供養」に統一して行われた表彰式では、堀沢祖門叡山学院院長より、熊野中三年堀部真未さんに「天台座主賞」が、淑徳中二年堀場瑠莉さんに「天台宗書道連盟会長賞」が贈られた（写真）。

教区法儀研修会を開催

= 栃木教区・清原行院長講師に =

昨年十一月三十日に栃木教区宇都宮部の智音寺（鹿沼市・矢島貞昌住職）において栃木教区法儀研修会「布薩研修会」が開催された。



研修会は延暦寺一山弘法寺住職の清原恵光大僧正（比叡山行院長）を講師に迎え、教区内住職、法嗣等四十四名が参加して行われた（写真）。

同日は午前九時三十分より開講され、旭岡聖順同教区宗務所長の挨拶に続き「布薩について」と題して清原師の講義があり、午後には「布薩作法」実習が二度に亘り行われ、参加者たちは熱心に取り組んでいた。（報告＝本橋亮成通信員）

布薩の理論と実践を中心に研修

このDVDとビデオは延暦寺居士林研修道場の坐禅止観作法を採用して作成されたもので、入堂から退堂までの作法が四十四分間にコンパクトにまとめられている。各教区宗務所に提供されるが、このDVDの複製は許されていないので、教区だけでなく、寺院においても、様々な場面で活用されることを望まれている。



DVD版「坐禅止観」

指導の手引き「坐禅止観」完成
法務局 大事

新年が来ましたか



コンパス
天台宗宗機顧問
杉谷義純

去年今年 貫く棒の如きもの（高浜虚子）
新年を迎え今年こそ張り切っている人には、いささか水を差されるような句です。
しかし、今年を充実した良い年にするためには、去年の過ごし方が大きく影響を及ぼします。昨年のことをすっぱりと切り捨て、白紙で新年に臨むことはできません。

昨年は本当にいろいろな事件が起きました。それらの特徴は、社会全体が病んでいるのではないと思わせるものが、少なくありませんでした。JR脱線事故、幼女殺害事件、違法危険建築事件等々、枚挙にいとまがありません。

とまがありません。もちろん犯人は厳しく断罪され、又贖罪すべきでありますが、それだけでは問題の解決にならないところまで来ています。
今の社会を象徴するような事件が、年末に起こりました。みずほ証券という会社が、東京証券取引所にある会社の株式を、一株六十一万円で売りに出すところを、誤って一株一円で六十一万株を売りに出してしまったのです。単純なコンピュータへの入力ミスです。すぐに誤りに気がついて取り消しましたが、今度ではコンピュータが作動せず、すべて売買が成立してしまいました。

常識では一株一円が上場される株などありません。知らぬ間に、多くの投資家が誤りを知りながら、一攫千金とばかり平気で買ったわけです。人のミスを踏み台に数秒で何千万円も儲けた輩が出たわけです。現行法では合法的な取引ということらしいのですが、なんとなく割り切れません。投機とは売り手と買い手の思惑が一致して、はじめて成立するものです。

もともと投機とは仏教用語で、弟子の機根を師匠が見極め、自分の機根を投合させて導くことを意味するのですから、お釈迦さまもびつくりです。いくら合法とはいえ、相手のミスに乗じることは、著しく商道徳に欠けるばかりでなく、自分を貶めることにすらなるのではないのでしょうか。利潤追求を至上とし、露見しなければいけないという風潮が蔓延し、人間が人間であるための心の岩である倫理観が、風前の灯となつています。

わが宗では開宗千二百年を記念して「あなただけの中の仏に会いに」をスローガンに、総授戒運動を展開しています。この授戒の意義を僧侶や檀信徒が主体的に受けとめ、本当に自分の中の仏探しをしてほしいものです。即ち時代の風潮に流されそうなの自分をきちんと点検し直すことが肝要です。そうでないとい暦の新年になつても、本当の新年とはいえないでしょう。

【東海・浄土寺】尾関大全師
【兵庫・延命庵】郷司泰静師
【四国・薬師寺】青峰良陽師
（平成17年11月18日、平成17年11月30日 法人部調）

祝新任職任命
光永 澄道師
平成17年11月30日遷化
滋賀教区伊崎寺住職
平成17年12月4日日本葬儀執行

示寂
命所 特命 御衣 宗務 天台 三諦 森 忠法 衣店
五代目 森 忠兵衛
〒604-0842 京都市中京区押小路通烏丸東入
電話 075-231-1203 番
FAX 075-255-7020 番

本堂と寺院墓地改修落慶

一昨年の台風被害を機に改修



兵庫教区の和田寺(篠山市・武内善照住職)では、一昨年の台風で被害を受けた本堂の改修工事が完成。昨年十一月二十六、二十七日に「本堂並びに寺墓地大改修落慶慶讃本尊開帳法要」を厳修(写真)、約三百年ぶりにご本尊の「千手観世音菩薩」を一般公開した。同寺は六四六年に法道仙人が開いたといわれ、八二〇年に天台宗に帰属、一三〇〇年を越える

歴史を誇る古刹である。

当初、天台宗開宗千二百年を記念して歴代住職らの墓地の改修を計画していたが、台風のために本堂の銅板大屋根が大きな被害を受けたため、併せての大改修を一昨年十二月より行っていた。

二十六日は午前九時三十分から、本堂までの参道で稚児行列が賑やかに行われ、続いてご本尊開扉法要が営まれた。午後は、「歴代住職住侶墓地大改修竣工開眼法要」が修された後、同寺福聚法会会

員によるご詠歌・舞踊の奉納があった。二十七日は午前十時からご本尊・千手観世音菩薩の開帳法要が執り行われ、

〔兵和庫〕
〔和田寺〕

私設学寮
妙法院南叡学寮生募集

京都三十三間堂の本坊、妙法院が開設する宗門の法嗣養成機関で、僧侶として必須の法儀・作務を習得しながら市内大学に通学するものです。

- 募集人数 若干名
- 資格
 - 天台宗法嗣として得度している者
 - 市内大学(学部不問)及び叡山学院に在籍する者(来春4月入学予定者含む)
 - 年齢不問
- 処遇特典
 - 月例の講義(宗学・法儀)
 - 個室・食事供与
 - 通学、研究費補助
 - 学費(一般)の一部補助
- 募集期間 ○平成17年12月10日～18年3月末日

まず、下記までご連絡下さい。
京都市東山区七条上ル 妙法院門跡・本坊
電話：075(561)1744

午後には丹波市のコーラスグループ「やまびこ」のメンバーによる慶讃聖歌の奉納があった。紅葉に彩られた境内は、両日共に檀家の人々や、参拝客で大賑わいだった。(報告)赤松善彰主事・鷲尾隆田通信員

天台トピックス

◎中央布教研修会を開催
十一月十二日の二日間、大正大学(東京・巣鴨)において、平成十七年度中央布教研修会が開催され、約

九十名の布教師が参加した。研修会は、大正大学多田孝文教授を講師に「教学のすずめ」と題した講演が行われ、併催されている教学大会教学部門の聴講、翌十二日には、布教師六名が布教部門で発表を行った。

特別授戒会執行状況 (12月10日現在)

◆近畿教区	11月28日	
青岸渡寺		戒弟311名
圓教寺		已講大僧正
◆滋賀教区	12月4日	
石塔寺		戒弟116名
毘沙門堂		探題大僧正

◎祖山参拝研修会を開催
十一月二十八・二十九日の両日、延暦寺会館を会場に、第三十四回天台宗檀信徒祖山参拝研修会が開催され、全国から約四十名の檀信徒が参加した。

デスクから



十二月十二日は、新旧内局の交代と引き継ぎが行われた。去る人、来る人にそれぞれ部課の女子職員から花束が贈呈され、師走の天台宗務庁は時ならぬ花の香で包まれた。濱中新総長が「皆さまの協力を得て、宗務を行いたい」と静かに決意を述べ、西郊前総長は「四年間、ありがとう」と大音声で手を振りながら宗務庁を去った(写真) ●それにしても、四年というのは長いのか、短いのかと考える。天台宗の出版をお手伝いしてから、これまで杉谷、藤、西郊の三師にご指導を頂いて十余年が過ぎ、濱中総長で四代目の内局に教えを頂くことになる。考えてみれば、自分は十年一日で過ぎた者で、四年の長短を考える資格などないのかも知れない。新年を迎えるにあたり、せめて、もう少し精進しようとして、これまた昨年と同じことを考えている。

米國全土や欧州布教展開へ

ネエモン住職 本堂完成報告に来庁

ニューヨーク院

天台宗ニューヨーク別院のポール・ネエモン住職が、十一月二十日、同別院の堂衆(僧侶)ら九人とともに、天台宗務庁と総本山延暦寺を訪れ、本堂完成の報告と天台宗開宗千二百年慶讃大法会の報恩の誠を捧げる法要を行った。

「い」と抱負を述べた。今回の来日は、信者のメンバーと初めて総本山延暦寺に参拝する旅でもあった。別院で八年修行したという同行の堂衆の昇真師(サンドラ・ジー)は「日本は美しい国で、皆心から親切にしてくれる。初めて伝教大師が修行された地であり、天台宗発祥の地である比叡山にお参りできて感激している」と語った。

ネエモン住職は「本堂が落成したことで、地域から寺院が増えた。また町の平和集会や会議などに使われることも多く、地域のコミュニティとして利用されることは有り難い」と語り、更に今後は「アメリカ全土や、ヨーロッパでも布教を展開した



BOOKS

地図とあらすじで読む ブツダの教え

高瀬広居「監修」――青春出版社刊

「もつとも優れた生」が「目的を達成する」。これは人の名前である。

「もつとも優れた生」は「ゴータマ」、「目的を達成する」は「シッダールタ」である。仏教の祖ブツダの名であるわけだが、案外知られていないことかも知れない。さらに、ブツダが過去世でスメダ(善慧)という青年で、ゴータマ・シッダールタとして人間界に生まれ出るまで、亀、兎、鳥、猿、鹿、馬などの動物や、獅子、竜王、夜叉、或いは人間

話などにも影響を与えたという。以上のことは、本書の序章「ブツダの前世物語」で知り得たことである。シッダールタは如何にしてブツダに成り得たのか、そして何を伝えようとしたのか。本書はブツダの生涯からその教えまで、「仏教」の世界観を簡潔かつ平明に解らせてくれる内容を持っている。ブツダの誕生、樹下の瞑想と四門出遊、チュンダの供養と入滅など、第一部で「ブツダの生涯」をたどり、第二部



「ブツダの教え」では、一切皆苦、諸行無常、輪廻などの教えと、大乘仏教と上座部仏教、日本・中国と仏教、チベット仏教などの仏教伝播の道を紹介する。見開きの半ページが地図、イラスト、写真、図表になっており、大いに理解の手助けになっている。

高瀬広居監修・青春出版社刊

最澄と天台の国宝

天竺南緯 百済 聖徳太子 特別展覧会
Faith and superstition:
Sancho and
Treasures of Tendai

特徴と魅力

(最終回)

京都国立博物館工芸室長 久保 智康

Ⅶ 京都の天台

展覧会も会期の半ばとなり
ました。連日、多くの方に観
覧いただき、好評を博してい
ます。一日からの後期展で
は、絵画・書跡の大半が展示
替えされておりまして、二
度、三度とおいでになる方も
少なくありません。お誘い合
わせの上、ご来館ください。
さて、展示の最終コーナー
は、千二百年の都、京都と天
台宗の関わりをテーマとして
います。

天台宗は、桓武天皇の信任

を得て開宗して以来、王城鎮
守の宗として、都の人々の信
仰を集めてきました。
貴顕の求めに応じ、修法を
執り行う一方で、薬師如来や



重要文化財 薬師如来坐像 雙林寺蔵

観音菩薩、不動明王、さ
らには聖天、三宝荒神な
どの仏菩薩を奉じた祈禱
を行う天台寺院は、京都
の民衆の参詣する空間で
もありました。
京都は、親王が入寺
して興った五箇室門跡
(三千院・妙法院・青蓮
院・曼殊院・毘沙門堂)



金銅羯磨 護淨院蔵

要作品を発見しました。
鞍馬・地蔵寺の阿弥陀如来
坐像、丹波・福林寺の毘沙門
天立像など、平安・鎌倉時代
の古仏に目を見張りました。

荒神口・護淨院や青蓮院では
羯磨・飯食器という密教法
具の京都で最古級の品々が見
つかり、毘沙門堂では江戸初
期の豪華な三葉葵紋時絵密壇
が今も使われていたりして、
京都天台寺院の歴史の奥深さ
を思い知らされました。

雪が溶けて 川となって

中尊寺貫首 千田 孝信

(8)

「絢子ってさ。言いたいコトと
か、思ってるコトとか、けっこ
う我慢しちゃったり、なんかこ
う、手を傷つけないように、嫌な思
いも消そうよ！」

その線、消そうよ！

いさせないように、一生懸命気
つかいすぎて、なんていうか、相
手を思いすぎて、自分を大切に
ない話しかたするよね。
なんかさあ。線を引いているん

だ。これ以上は入らないでつて
う線。でもそれだとき、悪口も言
われないし、当たり障りもなく
いいかもしれないよ。でもそれ
から解放できたと思う。それから
は、人とかかわるのが楽しみな
った。少しずつ自分の感情を出せ
るようになった。泣いたり怒っ
たりができる。本当に笑えるよ
うになった。笑っているときに本
気で、みんなが笑ってくれるよ
うに

嘩だつてしたいよ。喧嘩できるよ
うになろうよ。自由にならな
い。誰もそれを非難したりはし
ない。むしろそういう絢子とトモ
ダチになりたい人のほうが多い
と思うよ。

ある友だちから、こう言われた
瞬間「あゝ、この人のこの言葉
聞くために、今まで生きてきたん
だ」と私は思った。大袈裟だ
けど、この言葉で初めて自分を自
分から解放できたと思う。それ
からは、人とかかわるのが楽し
みなった。少しずつ自分の感情
を出せるようになった。泣いたり
怒ったりができる。本当に笑え
るようになった。笑っているとき
に本気で、みんなが笑って



カット・河崎孝彦「白クマ」
(アトリエ・ウーフ)

これら初公開品に、東山・
雙林寺の薬師如来坐像や大
原・来迎院の釈迦如来坐像な
ど、重要文化財の本尊仏も加
え、各寺院の代表的宝物を紹
介します。

◎関連国際シンポジウム

「仏教美術にとつての東ア
ジア往還」渡海僧たちが
もたらしたもの」

パネラー 王勇(中国)、鄭宇
澤(韓国)、百橋明
穂・内藤榮(日本)
の各氏

日時 11月12日(土)
午後一時より

会場 国立京都国際会館

申し込みの
問い合わせ 京都国立博物館
電話 〇七五・五三一・七五〇四

素晴らしい 言葉たち

それ、三界は、ただ心一つ
なり。心、もし安からずは、象
馬・七珍もよしなく、宮殿・楼
閣も望みなし。今、さびしき
まひ、一間の庵、みづからこれ
を愛す。

「方丈記」鴨長明

方丈記は「ゆく河の流れ
は絶えずして、しかも、も
との水にあらず」で有名な
です。その中にある言葉。
「仏の教えでは、この世界
というものは心の持ち方一
つである、といっている。
心がかもし、安らかでないな
ら、象馬、七珍といわれる
財宝があつても何の意味も
なく、宮殿、楼閣も同じ。
今、寂しい一間の庵に住ん
でいるが、この生活を心か
ら愛している」という意味
です。

人は足し算だけでは幸せ
になれません。パブルの頃
は、競うように土地や物を
買ひ込みました。しかし、
他人との際限のない欲望競
争では、心の安らぎなど無
かつたはず。その後の
経済不況下でも物への執着
はなかなか捨てられず、そ
れにまつわる悲惨な事件も
多くありました。
しかし、もうそろそろ捨
てること、引き算を考えた
方がよさそうです。大切な
ことは自分の中にありま
す。「ただ心一つなり」と
いう言葉を味わってください
。価値の基準を他に求め
るのではなく、自分の心の
安らぎに置くことが必要で
す。

天台宗開宗1200年記念 特別展覧会

最澄と天台の国宝 割引引換券

売札窓口はこの部分を切り抜いてご持参下さい。
下記割引料金でご入場頂けます。1枚につき1名様限り。他券との併用不可。

10月8日(土)～11月20日(日)
京都国立博物館(京都市東山区)

休館 月曜日、但し祝日は開館し翌日休館
開館 9:30～18:00、金曜は～20:00
(入館は閉館30分前まで)

主催 京都国立博物館、天台宗、北叡山延暦寺
天台宗京都教区、読売新聞大阪本社 他

一般 1300円 → 1200円
高大生 900円 → 800円
小中生 400円 → 300円

事前に10枚以上ご購入の際は、さらに
お得な割引価格でご提供いたします。

詳しくは、読売新聞大阪本社文化事業部
(06-6366-1809)